

2026年3月期 中間期決算説明資料

2025.11.28

日本精密株式会社

東証STD 7771





Beyond China



1.2026年3月期 中間決算概況

2.2026年3月期 通期見通し

2026年3月期 中間期 決算ハイライト

- 釣具・応用品がでけん引。釣具・応用品は半期として過去最高の売上。
- 半自動機、自動機の導入による製造現場の効率化、生産性アップにより対応力、製造キャパシティが拡大。
- コストの増加により営業利益率が低下し営業利益は減益。

売上高

()は2025年3月期中間期

+1.8%



3,751 百万円

(3,686 百万円)

営業利益

()は2025年3月期中間期

△1.5%



225 百万円

(228 百万円)

営業利益率

()は2025年3月期中間期

△0.2pt



6.00%

(6.20%)

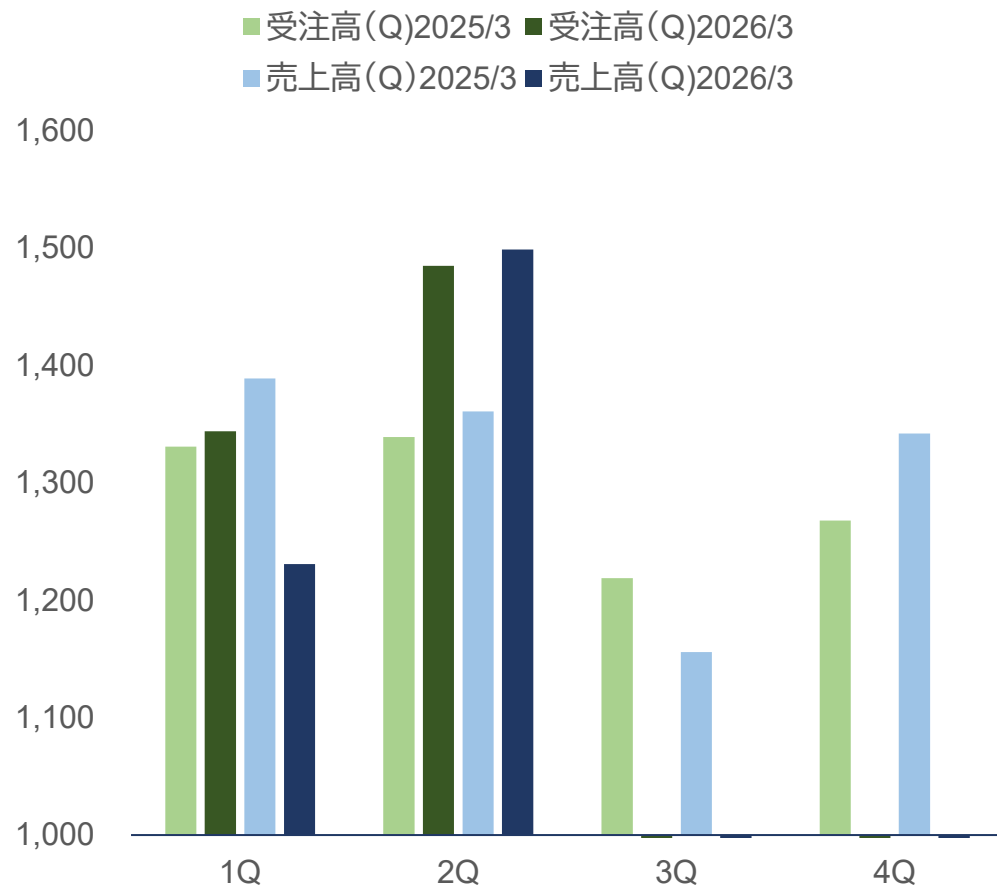
2026年3月期 中間期 PLサマリー

時計、メガネはスロースタートとなり、1Qの出遅れを挽回できなかったものの、釣具が好調で増収。
一方で利益面では時計の利益率低下が響き営業利益はわずかながら減益。
為替差益を計上したことにより経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は大幅な増益となった。

単位:百万円	2025年3月期 中間期実績	2026年3月期 中間期実績	増減額	増減率
売上高	3,686	3,751	+64	+ 1.8%
売上総利益	836	850	+14	+ 1.7%
売上総利益率	22.7%	22.7%	△0.0P	
販管費	607	625	+17	+ 2.9%
販管費比率	16.5%	16.7%	+0.2P	
営業利益	228	225	△ 3	△1.5%
営業利益率	6.2%	6.0%	△0.2P	
経常利益	△72	163	+236	—
経常利益率	—	4.4%		
親会社株主に帰属する当期純利益	△99	127	+227	—
当期純利益率	—	3.4%		

セグメント情報:時計部門

■ 受注高、受注残高推移

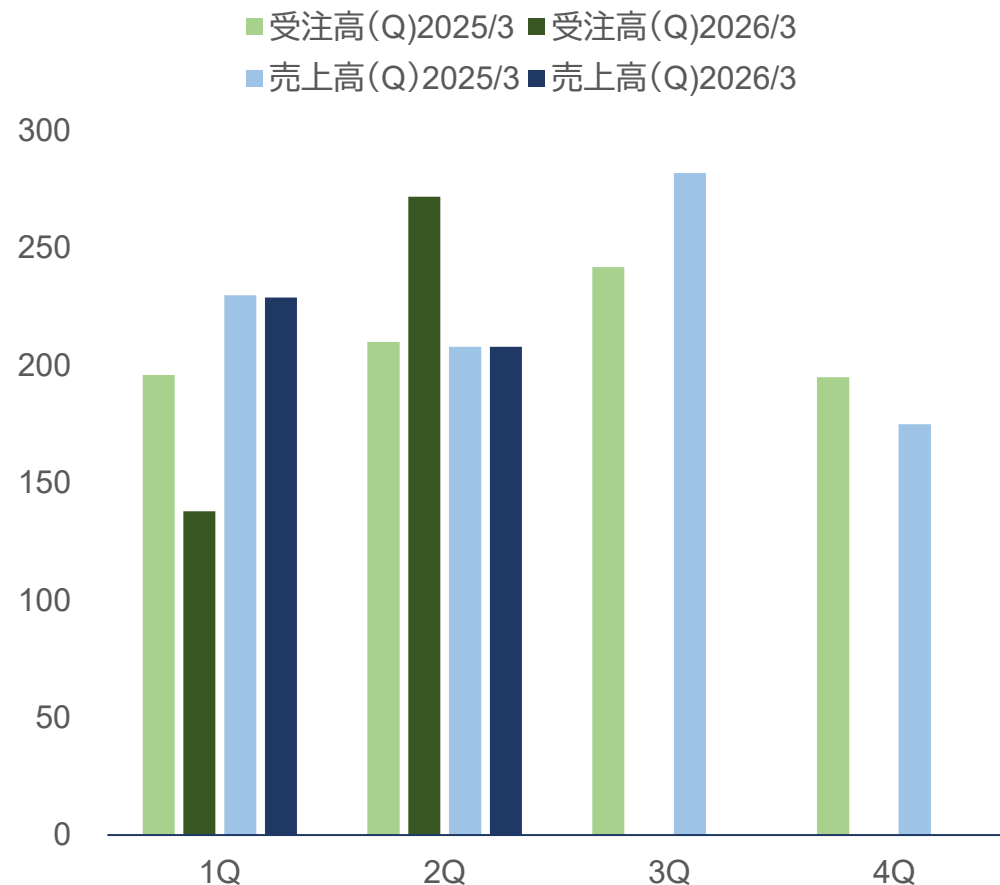


	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	前年同期比 金額	前年同期比 %
売上	2,750	2,731	△18	△0.7%
セグメント利益	162	117	△45	△27.9%
受注高	2,671	2,829	+157	+5.9%
受注残	505	591	+86	+17.0%

1Qの出遅れが響き減収減益。製品ミックスの影響で利益率も低下。
受注は堅調。

セグメント情報：メガネフレーム部門

■ 受注高、受注残高推移

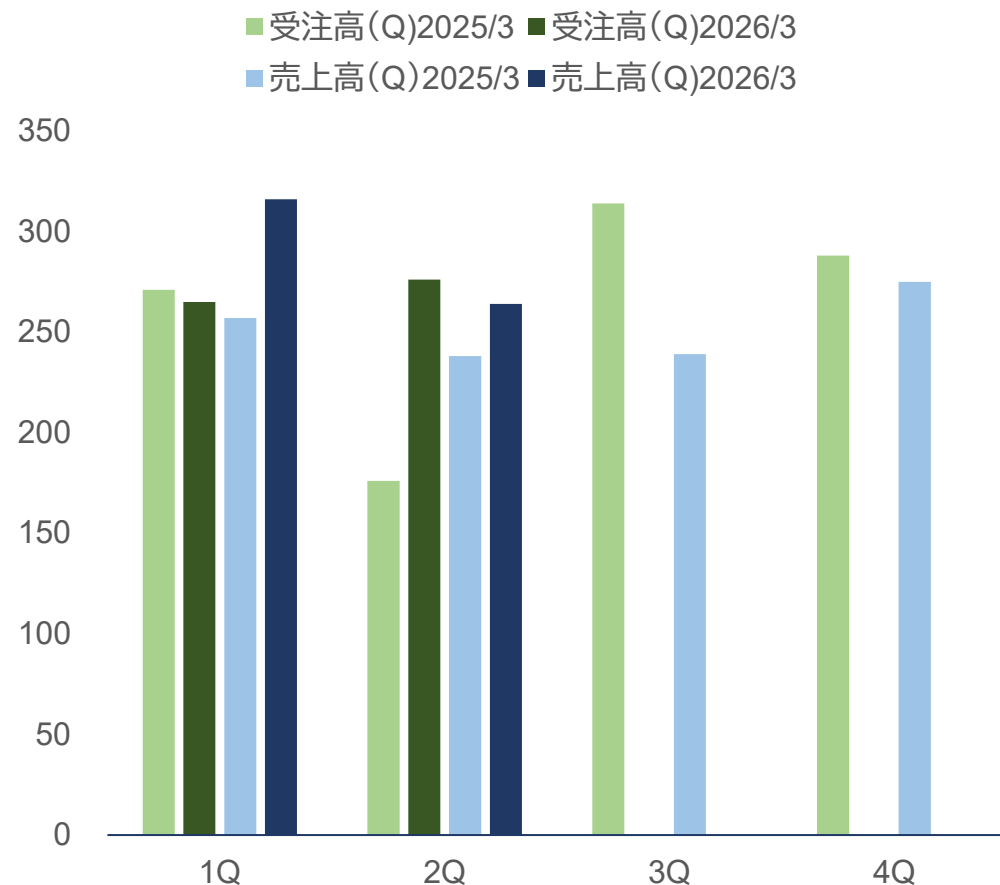


	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	前年同期比 金額	前年同期比 %
売上	439	438	△1	△0.3%
セグメント利益	8	10	+2	+23.5%
受注高	406	410	+4	+1.0%
受注残	244	198	△45	△18.8%

主要ブランドは堅調。一部ブランドで新製品の投入時期が遅れたこともありわずかながら減収。
受注は2Qに急回復し上半期としてはほぼ前年並み。

セグメント情報:釣具・応用品部門

■ 受注高、受注残高推移



	2024年3月期	2025年3月期	前年同期比 金額	前年同期比 %
売上	496	581	+ 84	+ 17.1%
セグメント利益	68	100	+ 31	+ 46.8%
受注高	448	542	+ 93	+ 20.8%
受注残	182	230	+ 48	+ 26.6%

世界的な釣り人気もあり、増収増益。NEXT Chinaの動きに加え提案営業の成果により金属パーツ採用価格帯が広がったことも好調の要因。半期の売上高としては過去最高。

2026年3月期 中間期 BS / CF サマリー

【BS】

2025年3月末

総資産:5,639百万円
自己資本比率:26.1%

資産

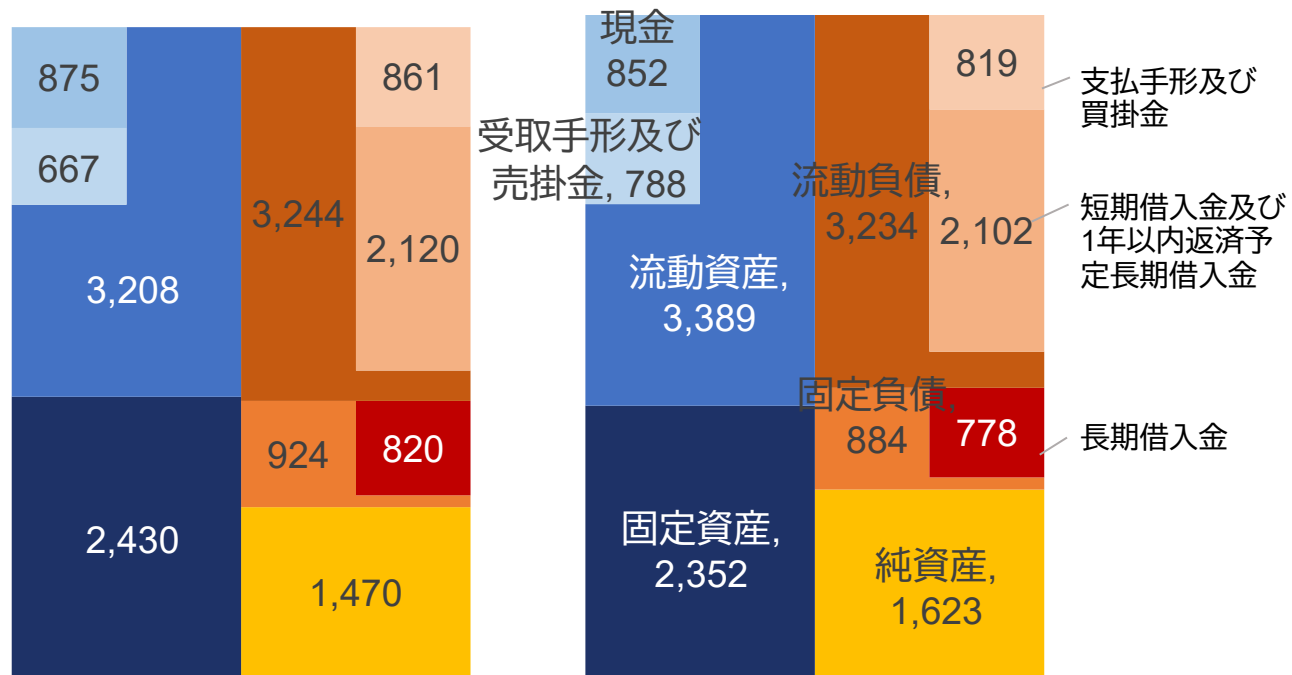
負債・純資産

2025年9月末

総資産:5,742百万円
自己資本比率:28.3%

資産

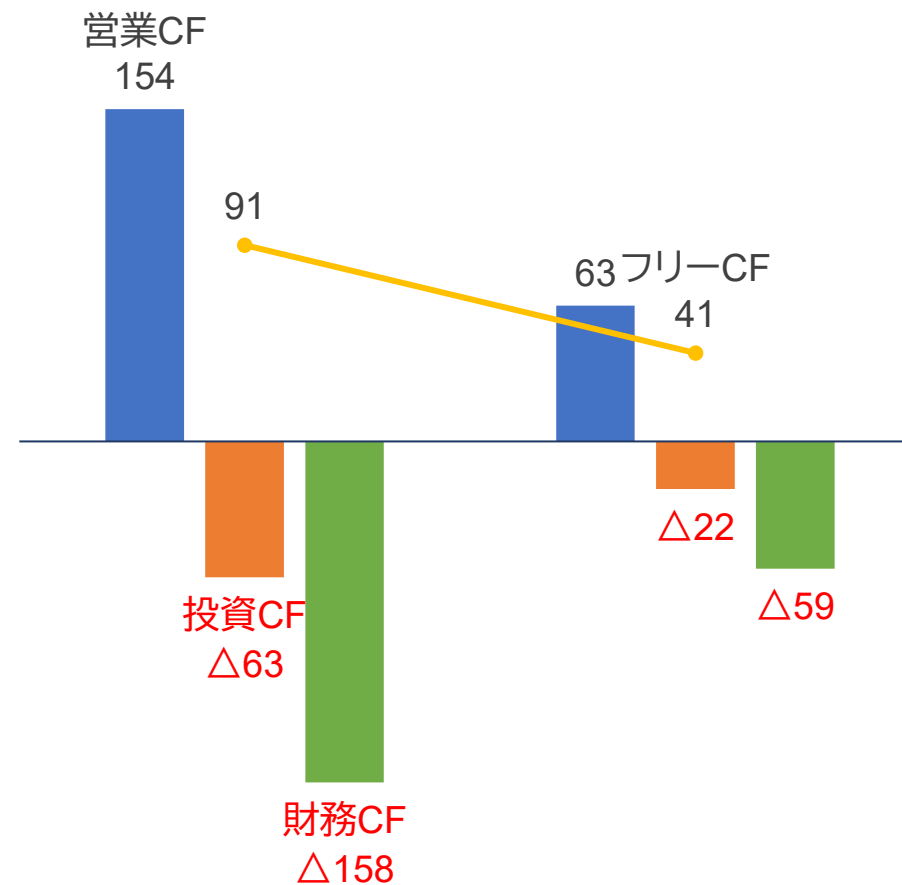
負債・純資産



【CF】

2025年3月期中間期

2026年3月期中間期





Beyond China



1.2026年3月期 中間決算概況

2.2026年3月期 通期見通し

事業方針: 全社グループ(期初策定方針)

新型コロナ、ウクライナ紛争に続き、米国関税問題によりグローバルでサプライチェーンの再構築が進む状況を好機と捉え更なる飛躍の第一歩とする

モノ作りの脱中国をサポート Beyond China 戦略

7つの戦略ドライバーを軸に飛躍のFirst stepを刻む

1. 既存事業の競争力強化
2. 精密加工技術を活かした事業領域の拡大、M&Aによる成長
3. ASEAN拠点の最適化
4. 村井ブランドの成長 ← **ASEAN Project IIIの最重点課題**
5. 人・設備への投資再開
6. グローバル人材育成、海外スタッフ優秀社員表彰
7. 財務基盤の強化とIR活動の強化



Beyond China

※ 詳細につきましては本年度中の公表を目指して準備を進めている中期経営計画ASEAN Project IIIにて開示する予定です。

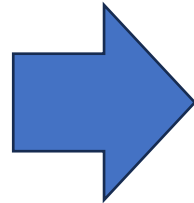
【国内主要時計メーカー 時計事業売上計画】

営業体制強化



7人×1日

1,500個



1台×1日

3,600個

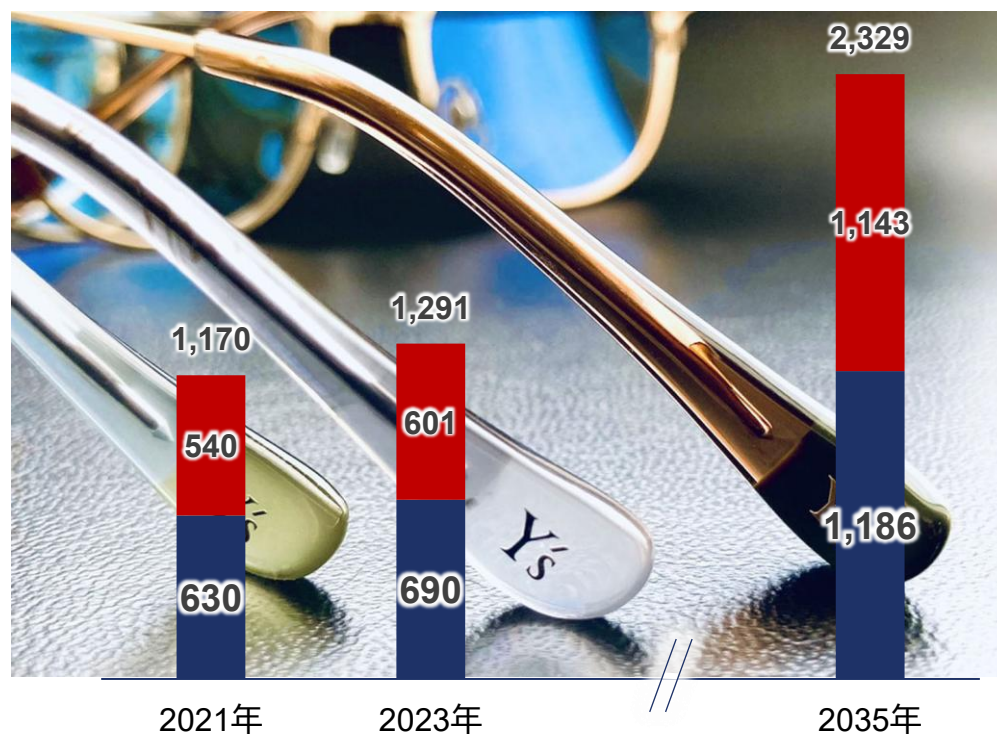
試作専門チームを編成、
＜提案＞⇒＜試作＞の期間短縮により、
中国サプライヤーを凌ぐ機動性を確保。
サーボプレス機等の導入により、生産効
率が向上。対応製品の幅が広がり、製造
キャパシティも拡大。
**営業人員を補強し提案営業の体制を強化。
提案力を強化し売上拡大を図る。**

事業方針：メガネフレーム部門

【世界のアイウェア市場規模予測】

単位：億米ドル

■ 視力補正その他（コンタクトレンズを除く） ■ サングラス



Global Market Insightsデータから当社推計

最重点強化事業

ニューアイテムの市場投入により巻き返しを図る。

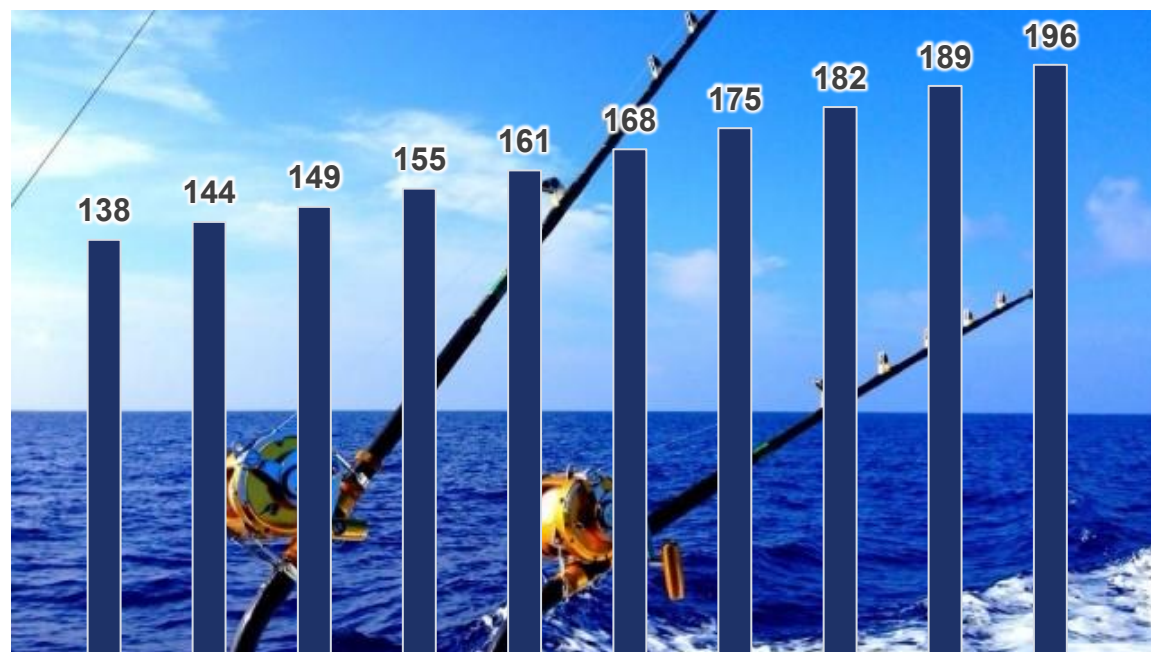
- 「Yoji Yamamoto」の新製品
- 新ブランド「OUTDOOR」サングラス

ECによる販路拡大戦略の推進。
オンライン向け独自ブランド、オンライン限定モデルの開発。

事業方針：釣具・応用品部門

【釣り具・フィッシング機器の世界市場規模の予想】

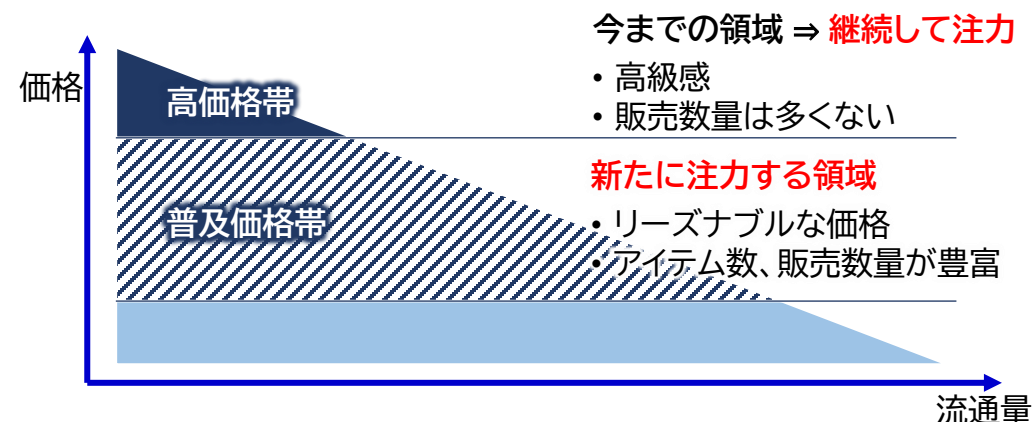
単位：億ドル



2023年 2024年 2025年 2026年 2027年 2028年 2029年 2030年 2031年 2032年

Deallab資料より

フォローウインドを活かし更なる拡大へ



世界的に好調が続く釣具を中心に更なる業績拡大を図る。

時計部品で培った加工技術、ノウハウを活かし、普及価格帯への展開を更に強化。売上拡大を図る。

2026年3月期 通期業績計画



単位：百万円	2026年3月期 計画	2025年3月期 実績	増減率
売上高	7,000	7,158	△2.2%
営業利益	180	275	△34.7%
経常利益	140	2	－
親会社株主に帰属する当期純利益	103	△20	－

ASEAN ProjectⅢ



今期中に2027年3月期を初年度とする中期経営計画「ASEAN ProjectⅢ」の公表を予定。



コーポレートスローガン

『手のひらロマンで世界を刻む』

手のひらロマンで世界を刻む

キャッチフレーズ

『肌に優しい金属加工技術』

肌に優しい金属加工技術



Beyond China

日本精密株式会社 手のひらロマンで世界を刻む

本資料は、今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。本資料は注記のない限り2025年9月30日現在の決算データ及び直近の事業データに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測などは、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。なお、本資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようにお願いいたします。